

## 第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

### 報告書資料 支援 - 11

学校名・団体名	石巻市立貞山小学校
HPアドレス	<a href="http://www.city.ishinomaki.lg.jp/school/20300900/index.html">http://www.city.ishinomaki.lg.jp/school/20300900/index.html</a>
コース	学校支援
活動・研究テーマ	地域と協働で子どもを育てる取り組み
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>東日本大震災後、たくさんの方々の支援と協力を受け、教育活動を再開することができた。また、地域の方々も、本校児童の健やかな成長を願い、少しずつではあるが学校の教育活動に力を貸していただけるようになってきた。</p> <p>本校は、一昨年度から地域の方々と「貞山小学校区協働教育推進協議会」を発足させ、家庭・地域と学校が協働し、地域の特色を生かした教育活動を実践し、児童の「生きる力」を育成する目的で、事業を進めてきた。地域と合同で行う「石巻市総合防災訓練」、地域に児童が育てた花を届ける「花育教室」、児童と地域の方々が夕食を共にする「ていざん子ども食堂」が主な事業である。</p> <p>これらの事業を通して、児童と地域の方々の距離を縮め、地域全体で本校の児童を育てる土壌を作っていきたいと考える。</p>	

活動1 全学年 161名 学校行事「石巻市総合防災訓練」 11月実施

- (1) ねらい
- 地震と津波に対して、身を守るために必要な知識や判断力を身に付けさせ、正しい避難の仕方を理解し、非常事態発生に対処できる技能や態度を養う。
- (2) 工夫点
- 巨大地震が発生したことを防災無線で伝えられたら、児童は自宅で、1次避難としてテーブルの下等、「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所に避難する。
  - 大津波警報が発令されたら、2次避難として地域の避難所に、非常持ち出し袋を持って、家族で避難する。
  - その後、登校し、低学年は、地域の方から地震・津波・避難生活等の話を聞き、新聞紙で防災グッズ(スリッパ)を保護者・地域の方と作る。中学年は、非常用持ち出し袋に入れておいた方がよいものを保護者・地域の方と考える。高学年は、AED・心肺蘇生法訓練と応急手当・搬送訓練を保護者・地域の方と行う。
  - 最後に、児童を保護者に引き渡す訓練を行う。
  - 活動の様子をホームページや廊下に掲示されている写真で振り返る。
- (3) 助成金の活用
- ヘルメット・三角コーン・コーンバー・コーンベット・誘導灯・額縁・プリンターインク
- (4) 成果
- 事前に地域との話し合いを丁寧に行い、地域と協働で訓練を行うことができた。
  - 自宅で災害が起きたときの避難の仕方を理解させ、防災意識を高めることができた。
  - 学校防災の取組を地域や保護者に理解してもらうことができた。

活動2 5学年 40名 総合的な学習の時間「花育教室」 1月実施

- (1) ねらい
- 児童が花育教室で大切に育ててきた花を地域の一人暮らしの高齢者の方に贈呈し、喜んでもらうことにより、自分たちが地域のために役立っていることを実感させる。
- (2) 工夫点
- 高齢者の方への心がこもった年賀状を事前に作成し、花と一緒に届ける。
  - 民生委員の方に、各地区の高齢者宅に案内していただく。
  - 活動の様子をホームページや廊下に掲示されている写真で振り返る。
- (3) 助成金の活用
- 移植ごて・額縁・プリンターインク
- (4) 成果
- 自分たちが育ててきた花が、各地区の一人暮らしの高齢者の方の生活に潤いをもたらせることを実感させることができた。
  - 各地区の一人暮らしの高齢者の方と関わることを通して、自分たちの地域に愛着をもたらせることができた。

活動3 全学年 190名 教育課程外「ていざん子ども食堂」 毎月1回実施

- (1) ねらい
- 地域の子どもの居場所をつくり、何か困った時に地域の方と相談できる関係性をつくっていく。
- (2) 工夫点
- 毎月1回定期的に行う。
  - 「NPO法人TEDIC」の支援を受けながら、地域住民による自主的な活動にする。
  - 活動の様子を振り返るために、ホームページや廊下に写真を掲示する。
- (3) 助成金の活用
- 炊飯器・額縁・プリンターインク
- (4) 成果
- 地域住民と児童の交流が深まった。
  - 地域の方が、学校や子どもたちのためにと、自主的に花壇の草取りや松の木の剪定、登校時の見守りを行ってくれた。